

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホームくつろぎ(1階)		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajicokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0174100768-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑い声が溢れる毎日と入居者が当たり前の生活をおくられるように日常的なことを共に支えあいながら行い、窮屈で退屈な毎日とならないように時には静かに1対1でお話をし、時には外食や温泉、カラオケにも出かけて入居者と職員、時にはご家族も一緒に楽しめる毎日を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年を迎える木造2階建て2ユニットの事業所は、ゆったりとした作りで、居間、食堂、台所が同じ空間にあり、大きな窓から陽が入り明るく暖かい。利用者は居室にいるより、居間で寛ぐ時間が長く、台所の匂いを感じ、テレビの音、話し声や笑い声を聞きながら、それぞれの居場所で好みのことをしながら寛いでいる。日常的に近隣の店に買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わし、敬老会などの地域行事に参加し、忘年会や餅つきの事業所行事に多くの家族・地域住民が参加して、ゲームや餅を食べながら笑顔と笑い声のひとつを過ぎ交流している。また、演芸ボランティアが来訪し、利用者も一緒に参加しながら楽しんで相互に交流している。中学生の体験学習受け入れなども積極的に行っている。家族訪問や「くつろぎ通信」で、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態を知らせており、家族から感謝されている。ホーム長はじめ管理者・職員は家族の絆を大切に接し、事業所で生活をしていても家族と一緒にいる時間を大事に支援をし、利用者は明るく楽しく生活をしている。職員間の連携も良く、利用者の尊厳を守りながら、日々穏やかに過ごせるように支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく健康で地域と共に」の理念通りにホーム内は笑顔と笑い声が絶えない。訪問看護と連携し催し物には地域へ案内を出している	理念を掲示し、ホーム長、管理者、職員は理念を共有している。理念である「明るく楽しく健康で地域と共に」を日々の暮らしの中で具体的に活かすように実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、近くのコンビニには毎日のように入居者と買い物に出かけていて、入居者のなにげない一言に店側が対応してくれている	町内会に加入し、親睦会や敬老会等町内会行事に参加している。事業所のお祭りの案内を町内掲示板に張ってもらい、地域住民が参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、成年後見制度の講座を開催し地域の人への参加を呼び掛けた		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に報告はしているがあまり意見があがってこない	2カ月に1度、包括支援センター職員、町内会、家族などが参加して、事業所運営事項や今後の予定を報告し、時には講師を招いて成年後見制度の知見を深めながら、参加者とともに意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	篠担当とは相談しやすい関係であり、入居相談に際しての疑問や対処方法を教えて頂いた	市の担当者と電話連絡を常に取り合っている。ときには出向き事業所の実情を話し合いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一度安易に玄関を施錠したことあり結果的には理解がされていなかったと思われる。	身体拘束防止のマニュアルを作成し、外部研修や内部研修に参加して、業務の中で互いに話し合いながら職員全員が「身体拘束の弊害」と「どのような行為、声掛けが身体拘束に当たるか」について理解を深めて、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われているわけではないが、毎日ケアのみに集中している感あり虐待について常に意識し注意を払っていないことも認められる		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年12月に成年後見制度の講座を開催したが、全ての職員が学んでおらず、今後も継続して勉強会を開催する予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて契約を進めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが訪問時や電話等で直接ホーム長や管理者へ伝えてくれるのでその都度対応している	家族の来訪時や通院送迎時にコミュニケーションを取って意見、要望を聞いている。家族はホーム長や管理者に直接伝えることも多い。意見、要望があれば職員間で話し合い、その結果を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や普段の会話の中で意見交換等している。	毎月の会議や、フロア会議の中で職員が互いに話し合いやメモ用紙を活用しながら意見を反映させている。ケアに関する事は直ぐに取り組むようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のシフトはもちろん、年2回の考課評をもとに把握しパートから正職員へ登用した		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講には積極的に進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長がグループホーム協会の役員をしており昨年より井戸端会議なるものを開催して他グループホーム職員との交流、意見交換等して質の向上を目指す取り組みをしている		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族、ケアマネより情報収集し関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時相談時には良くお話を聴き、職員も常に笑顔で迎え話しやすい雰囲気をつくり関係づくりに良い影響を与えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な可能性や必要性を検討している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、テーブル拭き、ごみ出し、買い物、料理等毎日のようにお手伝いを依頼して一緒にやっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご機嫌伺いの定期的な電話や訪問及び毎週一度の買い物同行、毎日の訪問等個々人に合わせて協力し合える関係を築いている。毎月1回の個人的な近況状態をお伝えしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行ったり、兄弟姉妹との相互訪問をしている。入院中の妻の見舞いに3日に1回のペースで出かけた	理美容や買い物の同行、兄弟姉妹の相互訪問の支援、入院中の奥さんの見舞いのための送迎などをして、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い人同士での外出や一緒に料理づくりに参加したりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の年賀状のやりとりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や美容室へ行ったり、晩酌などもして頂いている	日々の生活から利用者個々の希望や意向を把握しそれに添って支援をしている。近所の毎日の買い物、嗜好品のたばこ、晩酌等本人本位に支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネからの情報収集と本人との会話から把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や記録アセスメントシート等で把握共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	時には連絡ノートでケアについて意見交換をしたり、フロア会議で話し合い介護計画作成へつなげている	フロア会議やケア会議の記録を基に、担当職員と介護計画支援専門員・ホーム長と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成するときは、本人や家族と話し合いながらそれぞれの意見を反映する事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、記録、連絡ノート、時にはメモ紙にて情報共有に努め評価会議にて見直しへつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は基本、家族対応だが家族都合つかない時にはホーム対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室、近くのお店への買い物、理容室等支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療可能な医療機関への変更も出来、入居前の医療機関も継続できる	本人、家族の希望でかかりつけ医を継続受診している。受診同行は通常家族が行うが、家族の都合により事業所も対応している。訪問診療は月2回、訪問看護師も月2回来所、その都度医師からアドバイスを貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や医師は気軽に相談できる相手であり訪問診療時には職員が必ず状態状況報告をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず情報提供をし見舞い等重ねて退院後の受け皿になることを示し早期退院へ支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の段階に合わせて家族や医療機関と話しあう体制ができています。現在は終末期の方はいない	重度化・終末期ケア対応指針に沿って、早い段階から本人と家族の意思を確認し、その都度書面にしている。医師・訪問看護師・職員と方針を共有しながら支援に取り組んでいる。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し研修、勉強をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップをフロア内掲示し、定期的な避難訓練をしている	年2回、消防署または防災設備会社の立ち合いで行っている。夜間を想定した訓練も行ない、地域住民の参加も得ている。内部研修で、様々な事態を想定しての避難シミュレーションを実施し、準備を重ねている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレと風呂場には使用中の札をかけており、プライバシーに関係する話は自室でしている	トイレ誘導や入浴時の着脱などの対応は言葉遣いや接遇に配慮しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物希望、入浴希望には出来る限り対応している、ご飯の量を本人に確認したり、メニューを伝えて食べるのか盛り付けはどうか聞いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時々職員側の都合を優先してしまう時がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんど自立されている方が多いが男性のひげそりがおろそかになっていることある		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに置いたおひつより自分でご飯を盛って頂いている。盛り付けや配膳、食器の後片付けのお手伝いも頂いている	利用者の嗜好を把握し献立に取り入れている。行事献立や季節献立を取り入れて楽しんでいる。配膳や盛り付けを職員と一緒にに行い、外食支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけて把握して、支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝時の義歯の洗浄剤使用はしているものの、毎食後の口腔ケアは全員は出来ていない、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレ案内している	職員が声かけをしたり誘導することでトイレ排泄が出来ている。自立者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足こぎ、階段の上り下り等の運動も心掛け食材の検討、ヨーグルト・牛乳等乳製品の提供も心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後、夜、お湯を張り入浴の声掛けをしている	夜間も週2回を目途に入浴できるようにしている。利用者の好みを入浴剤を入れて楽しんでもらっている。特に冬季の乾燥対策に保湿クリームを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうであれば自室へ案内して横になっていただいたり灯りの調整等もしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の情報は誰でも見やすくなっているし、変更等があった時には申し送りや連絡ノートにも記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌をしている人・自分の食べたい料理を作る人・食席に箸を配る人、料理の下ごしらえをしてくれる人等がいる		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、理美容、外食等出かけている。地域の催し物への誘いがあった時には出かけている	買い物や外食、シルバー作品展などの地域の催し、町内会の盆踊り、ドライブ、温泉など利用者が出かけたい所に出かけられるように支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと自分で持っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる場所にあり取次もしている。年賀状等の支援もしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾りものを飾り付けたりしている	居間はゆったりとして、壁には季節を感じる飾り付けをしたり、行事写真等を飾ったりしている。キッチンからは食事の支度の音や匂いが感じられるようになってきている。居間とつながったテラスがあり、お天気の良い日は日光浴をしている。利用者は居室に籠るのではなく、居間で寛いで過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で過ごせる場所はあるが、皆一人になりたいときには自室に入っている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはきちんと説明し、入居後も本人の希望や状況を家族と共に検討している。仏壇を置いている方もいる。	引き出し付きクローゼットが設置され、使い慣れた装飾品や家族写真等置いてある。それぞれ馴染みの家具、仏壇などを持ち込み、心地よく過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの札と各居室の入り口に大きく氏名を書いている			